

2020年11月7日(土)

老球の細道573号

### 偉大なコーチ山崎先生の思い出 PARTIX

会津バスケットボール協会 室井 富仁

コロナで中止を心配されたウインターカップ県予選が先週終了した。残念ながら会津地区代表は若松商業男子がベスト4に入賞したのみで、今年も全国大会出場チームを輩出することはできなかった。ウインターカップは、私が高校3年時(1971年)に創設された全国大会(選抜優勝大会)で、山崎先生の鶴鳴女子高校は第1回が準優勝、第2回は優勝に輝いている。当時の監督は中村和雄氏であったが、後に山崎先生も顕著な実績をあげている。

#### ◆7月21日(火)夜

夜の部は大学の体育館で男女合同のクリニックがあった。トレーニング関係が主体のメニューで、ウエイトトレーニング、プライオメトリックトレーニング、PNFストレッチなど当時では最先端のトレーニング内容であった。

特にウエイトとプライメトリックのコーチの指導は素晴らしかった。内容の素晴らしさだけでなく、常に教えられる者を楽しませるエンターテインメントスピリットは、さすがアメリカであった。あの当時の雰囲気を出すと、今大統領選挙において対立と分断の殺伐としたアメリカの雰囲気が信じられない。

このコーチのいじられ役になったのが会津高校の選手たちであった。コーチのノリ、ユーモアに素早く反応し、色々なトレーニングメニューを参加校の中では抜群の能力でこなしていたからである。シャトルランの黒田君(大学卒業後海外青年協力隊に志願)、エンドラインからセンターラインまで連続ウサギ跳び4回弱でこなす大堀君(現県北地区ミニバスコーチ)、ボールハンドリング抜群の阿部君(元関東実業団優秀選手)などはアメリカでも注目される存在だった。

[付記:大堀君は身長160cm位しかなかったが抜群のジャンプ力を持っていた。中学校時はバレーボール部員、高校2年生の時には国体福島県選抜チームの一員に選ばれた。この時、会津高校から3名選出されたが、2人は中学校時に補欠選手、そして大堀君はバレーボール選手と、キャリアは少なくとも高校での努力で何とかなることを証明してくれた]

終了後に、山崎先生から「会津高校はバスケットボールの練習をしないで曲芸みたいなことばかりやっているのでは?」と、称賛か嫌味かわからない先生独特のコメントを寄せてくれた。

[蛇足:このアメリカ遠征に向けて選手たちはオニユウのチームTシャツを作った。プリントされている文字が「室井組」。私はアメリカでずっと山崎先生から「組長」と呼ばれた]

クリニック終了後、ピザレストランで日本の指導者による懇親会が開催された。長崎、徳島、茨木(コーチのみの参加)、そして会津のコーチ陣達がビールを飲みながら情報交換をした。ここでの主役はやはり山崎先生。先生の話から得られる知識は宝の山であった。皆ダンプの耳にして先生の話に耳を傾けた。「選手は昼作られる。コーチは夜作られる」